

## 要 請 書

## 県西部地域交流プラザ・パレットの現在の所在地での存続について

日ごろ県政の発展のためにご尽力頂いていることに敬意を表します。

県西部地域交流プラザ・パレット（以下西部パレット）を利用し、浜松市を中心として県西部で活動している諸団体の有志が、全ての西部パレット利用団体に呼びかけて、2月20日に「西部パレット利用者連絡会」を立ち上げました。これは、ふじのくにNPO活動センターの「移転・縮小」の経緯にふまえて、県との話し合いの態勢を整えたということです。そして、これまでに6回の会合を持ちました。6月24日の5回目の会合において、県から「県総合庁舎1階への、移転・縮小（会議室全廃など）」案が示されました。

6月24日および7月23日に話し合った結果、西部パレット利用者連絡会としては、県の案にはそのままでは同意できず、西部パレットの社会的価値を今後も高めてゆくために、対案として「移転せず・縮小のみ」の方向を確認しました。財政削減の観点から出された「移転・縮小」案では、西部パレットの社会的役割を低めてしまいます。これまで年々高まり、今後更に高まるであろう西部パレットの社会的役割を、県がそのようなものとして正当に評価し直すことへの期待を込めた対案です。

高齢化社会の進行、在住外国人の増大、貧困と格差の問題、などから派生する様々な課題に対応するためには、NPOやボランティアの活動は、今後ますます重要になります。「一等地だからもったいない」という消極的な考えに立つのではなく、「一等地だから利便性が高い」西部パレットを将来の社会を支える民間の活動の拠点として、より有効に活用するという前向きの姿勢が必要だと思えます。

その意味ではすでに、西部パレットは県民の将来になくしてはならない共有財産になっています。単に利用者の利便を図るという観点にとどまらず、県民の共有財産を育てるというビジョンが必要です。

2001年に設置された当時の西部パレットは、知名度もなく寂しい利用状況でした。通路に置かれたフラワーポットが視覚障害者の通行の妨げになるなどの難点もありました。その後、運営スタッフと利用者との努力によって、西部パレットは地域の諸団体の活動にとってかけがえのない施設に育ちました。西部パレットの社会的価値は、「移転・縮小」によって削減できる価値の、10倍以上です（試算）。

昨年度の西部パレットの利用者数は、58,683人（平成18年度比2.34倍）と県内の同種の施設のなかでも群を抜いています。障害者、外国人、老若男女の交流の場としても、思いやりと進取の気性のある人材の育成の場としても、重要な施設となっています。

浜松市視覚障害者福祉協会の皆さんは、「鍛錬の結果、脳内にイメージマップが描かれ、今では一人でも来られる。この8年間の蓄積があるからこそ、ザザシティの様々な機能を使いこなせるようになり、西部パレットは、今では生活の一部になっている」と語っています。

中・高校生を中心とした浜松UnitedChildrenの若者たちは、各種のイベントに参画して、活気ある浜松をつくる活動などを体験しながら、人間としての成長を積み重ねています。

それぞれの人々が、それぞれの思いで西部パレットに集っています。新しい交流が生まれ、互いに助け合い、協力し合って活動しています。私たちは、知事のご理解に希望を託したいと思えます。

そのためにも、県内の同種の施設の中核的位置を占めている東部および西部のパレットは、ぜひとも存続・発展させて頂きたいと思えます。

県知事におかれましては、心豊かな県民生活を送るために、そして西部パレットを拠点としての諸活動をさらに充実させるためにも、格段のご配慮をお願い致します。

団体名	
代表者	
連絡先 or 住所	